
【NARUTO】私が五代目風影様を嫌う理由。

水影蘭架

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【NARUTO】私が五代目風影様を嫌う理由。

【Nコード】

N2697BA

【作者名】

水影蘭架

【あらすじ】

私は“普通の”忍者だった。

砂忍で…義理の弟や、妹も居て…

それなのに…何でこうなった!?

何で私が…五代目風影の世話役なの!?

「Setting」

【名前】 うち海月^{みづき}
仮の名前を海月。

【年齢】 我愛羅と同じくらい。

【容姿】 藍色の長い髪をストレートにして縛っている。
前髪は、パツツンのような感じ・・・？

【服】 砂の住民たちが羽織っている白い織り物(?)。
その下には、マツリ(アカデミー時代の時の)が着ていた服似。

【能力】 秘密にしているが、五大性質を使用する。
写輪眼・万華鏡写輪眼も使える。

本当は上忍だけど、中忍だと言っている。

【口寄せ】 鷹を口寄せする。
計：9体。

【好きな事・物】
星・歌・水が大スキ。

【嫌いな物・人】
五代目風影、我愛羅。

【本人について】

誰からも頼られて、信頼が多い。

義理の弟と妹、三人で暮らしていたけど…現在では離れて暮らしている。

我愛羅とだけは、冷たく接している。

理由は二つ…。

一つ目は、世話係だからと言ってコキ使われている事。

二つ目は、わがまますぎる!!!

そして海月は、うちはイタチが愛した女でもある。

サスケとは姉弟関係のような感じだった。

H a t e … 1 「勝利。」

朝から…風影室は騒がしかった。

何故かというところ…。

我愛羅：「海月！…これをすぐにやれ」

海月：「嫌です。」

我愛羅：「何だと…？」

海月：「ですから…それは風影様がやればよろしいのでは？」

我愛羅：「世話係のくせに、俺に命令する気か？」

……何なのこの我儘。

海月：「命令なんてしていません。それにその書類は風影様がやらないと行けない物ですよ。」

そう言い、ドヤ顔で書類に目を落とす。

すると風影様は軽い舌打ちをした。

この人…

五代目風影は、嫌い。

嫌いって言うか…うざいって言うか…。

とにかく我儘過ぎて、最悪。

だからよくさっきのような喧嘩(?)もたまによくある事。

私が掃除(強制的に)をしていると、また始まった。

我愛羅：「少し疲れた…何か、紅茶とかないか？」

海月：「ありません。」

我愛羅：「だったら持って来い。」

海月：「嫌です。」

風影様は立ち上がった。

机を叩きそうになったが、叩かなかつたらしい。

海月：「紅茶って…ついさっき風影様が沢山お飲みになって無くなっただじゃないですか。」

それにカップとかは全て洗っている途中です。

それでも飲みたいのなら、暑い炎の中、手を伸ばして取って来て下さい。そしたら紅茶を注ぎます。」

そう言うと風影様が静かに座った。

私は背中を向けたまま、小さな笑みを零した。

テマリさんの話によると結構、裏がデレっとする方だっって言われてたけど…正直私にはどうでも良い話だった。

掃除も終わり、風影室にあるふかふかのソファで座って本を読んでいると誰かがやって来た。

それはカンクロウさんだった。

カンクロウ：「お。ちょうど良い所にいるじゃん。」

海月：「へ？」

カンクロウさんは私の手前に来ると、何かの白い紙を広げた。

カンクロウ：「あのさ…この配置なんだけどよ…住民から花を飾って欲しいって言われて…」

と、言いながら指を指した。

もう少しで風の国に開かれる祭りが行われるから、カンクロウさんが風の国の住民たちに何を置いて欲しいかアンケートを取ったらしく、一番に多かったのは花だった。

海月：「そうですね…一つの場所で一塊というのはどうでしょうか??

例えば…ここをピンクで、こっちは紫。向かい側には青色のコスモスとか^^」

カンクロウ：「おお…成程…サンキュー、海月」

そう言うとカシコウさんは嬉しそうに出て行き、私は「いえ、」
と笑顔で見送った。

本に目を向ける前に風影様の方を見た。

海月：「どうなされました？風影様」

我愛羅：「……………何でも無い。」

海月：「そうですか…。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2697ba/>

【NARUTO】私が五代目風影様を嫌う理由。

2012年1月6日22時54分発行